

第 3 回 行政経営改革委員会の概要について

1 会議の概要

開催日時：平成 30 年 7 月 2 日（月） 10 時から 12 時
出席：委員（12 名全員）

2 委員からの主な意見

■経営理念

- | | |
|---|---|
| ① | 知事が経営の目的と、そのための行動指針をはっきりさせ、職員との間で共有していると、悩むところがない。経営理念は大切だ。 |
|---|---|

■危機感とモチベーション

- | | |
|---|---|
| ① | 厳しい財政状況に対する健全な危機感を持つことと、職員がモチベーションをもって取り組むことの両立を図る必要がある。 |
| ② | 危機感決してマイナスなものではなくて、改革の良いチャンスになるのではないか。ひいては、それが前向きなモチベーションにつながる。 |

■国体施設の有効活用

- | | |
|---|---------------------------------|
| ① | 国体関連施設を、国体開催後に有効活用していくという観点が重要。 |
|---|---------------------------------|

■市町との連携

- | | |
|---|---|
| ① | 市町との連携は昔からよく言われているが、現状は情報が非対称で、互いに不合理に見えているのではないかな。人事交流をもっと進めてはどうか。 |
|---|---|

■仕事を減らす

- | | |
|---|---|
| ① | 「忙しい」という職員の声があるが、仕事の量を徹底的に減らさないと、組織は生き残れない。何かをやめることは、皆嫌がるが、スリム化は決して冷たい話ではなく、事業を継続するために必要なものだ。 |
| ② | 事務量を減らすのではなく、その事務自体をなくすという発想が必要。市町や民間でできることは、県はやらないという思い切った方針を出さねばならない。事務事業をやめるのは非常に難しく、すぐにはできないが、今後の行政経営を見据えと避けては通れない。 |

■事務事業の分析・ICT化

- | | |
|---|---|
| ① | どんな業務がどういったプロセスで実施されているか、現状はそのデータがないから、まずはデータを集め、個々の業務の分析をし、そして省力化や機械化の検討を行うことが、今後の大きな課題。 |
| ② | 現状の事務をそのまま ICT 化しようとしても難しいものもあり、まずは、ICT 化に適合するよう手続等の見直しを図る必要がある。ICT 化は、県民の事務負担軽減につながる。 |

■健康経営

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① | 県庁の働き方改革（健康経営）は、県内企業のモデルになる点でも重要な取組。 |
|---|--------------------------------------|

■「持続可能な滋賀を支える県庁」

- | | |
|---|---|
| ① | ここでいう「持続可能」とは、行財政運営を健全なものとするを指していると思うが、SDGsと混同する恐れがあるので、表現を変更すべき。 |
| ② | SDGsとの関連で、「持続可能な滋賀を支える県庁」という言葉は誤解を生む恐れがあるので、別の言葉を検討してはどうか。 |

以 上